

### 3. 平成29年度の事業計画

#### 1) 事業の概要

##### (1) 中長期ビジョン（将来像）の策定

現在全国の約4割の私立大学が定員割れであり、経営難に見舞われる大学が増えています。少子化が確実に進行していく中で、本学園も中長期的に安定した経営環境を作り出すことが課題となっています。本学園は「建学の精神」である「学識と技術の錬磨、報恩の精神、不撓不屈の精神」に則り、社会からの信頼を勝ち取り、将来を見据えた中長期ビジョン(目標・戦略)を策定して持続的な学園の発展を目指しています。学園各校は、特色のある質の高い教育サービスを提供し、21世紀の国際社会で活躍できる人材を育成する魅力と活力のある学校づくりに努めています。

こうした中、学園の基盤をより強固なものにしていくためには、①収入基盤の拡大：魅力と活力のある学園作りを目指し、入学者数の増加を図る。②支出の削減：収支均衡を目標とし、経費の見直し、コストの削減を図る。③組織力：本部、各校が一体となり、情報を共有化し、改革・改善を図る。以上が重要なポイントになります。

つまり、各校が社会のニーズに迅速に responding 特色ある教育活動の展開を図り、社会との繋がりを大切にしながら総合学園としての魅力と活力を高めていくことが強く期待されます。

##### (2) 事業計画の策定

平成29年度の学園各校の事業計画は、①施設・設備面のみではなく、それぞれの学校の教育改革や教育の重点施策などを反映した事業計画を策定しています。②事業計画の策定を平成29年度の単年度のみとするのではなく、中期計画を反映した計画として策定しています。③文理のブランド力を高める計画や募集広報上必要不可欠となる重点計画については、重点的に策定しています。④策定にあたっては、「他校との差別化」「募集インパクト」「施設・設備改善」「事故防止」を重視しています。

##### (3) 予算管理の徹底

本学園は多様な学校を擁することから、各校の独立採算を基本として、事業計画や予算の進捗管理の精度を高めることで全体の収支バランスを維持できる体制の確立を目指します。予算制度の安定的な運用を定着させるとともに、学園全体を横断的に捉えた経費削減策の検討を引き続き進めてまいります。そのため①各校ごとの収支バランスの確保を目標に、予算管理の精緻化を図ります。②個別の事業については優先順位と実施効果に十分留意した計画を基本とし、効果の検証をしっかりと行います。③施設設備についても全体像を見きわめた計画的な取り組みを行うことを基本とするほか、経年劣化の著しい施設設備の改善を計画的に実施いたします。個々の事業についてはあらかじめその効果を十分に検討し、全体最適を目指した予算執行に努めてまいります。

##### (4) 地域との連携

本学園は設置各校がそれぞれ地元の皆さまとの良好な関係の中で発展を遂げてまいりましたが、

学園として改めて地域の皆さまのご支援に感謝し、地域との共生や地元の発展に貢献できる諸施策に取り組んでいき、地域に愛される学校を目指していきます。その具体化にあたっては、本学園の教育の基本でもあるホスピタリティ精神の一環としてのボランティア活動をはじめ、地域に密着した教育機関として地元の皆様のニーズにお応えできる施策の積極的な提案を通じ、地域とともに発展する姿勢を明確にしていまいります。

## 2 部門別の事業計画

### (1) 法人本部

#### ①学園職員研修の実施について

学園の人材育成の方途として、教職員研修を定期的実施していきます。大学で義務化されたFD、SDによる研修とは別に、全教職員に対し、学園の人材の育成を図る研修を実施します。また、適材適所の人員配置により、個々人のスキルアップを図ります。

#### ②内部管理体制の構築について

学園監事、監査法人、会計士、内部監査室と連携し、管理・点検機能を強化し、不祥事故防止に努めます。前年度に引き続き、管理経費の更なる見直しを図り、経費節減策や効率化を推進していきます。

#### ③諸規程の見直しの推進

順次進められている学園の諸規程の改定について、当年度も更なる見直しを進めます。

### (2) 西武学園文理小学校

「文理小学校の特色(基本目標)をはっきりと打ち出し実践する」、「受験者数・入学者数増に繋がる木目細かな募集・広報活動を行う」の2点を重点に、本年度特に力を入れて取り組んでいきます。「こころ」「国際性」「知性」を育むという基本目標を更に強化してまいります。

#### ①語学教育の充実

低学年から英語を身近に感じる文理イマージョン授業に取り組んでおります。その集大成として5年生は英国短期留学を実施しています。6年生は米国研修を行い、国連本部の見学・現地小学生との触れあい、ハーバード大学やMITのキャンパスツアーやレクチャー、交流を通じて異文化コミュニケーション力をつけています。具体的には以下の事業を計画しております。

##### ア 英語教育課程の拡充

開校時に比べ、英語教育の質や内容が大きく様変わりしております。特に、高学年における英語教育は中学高校に続く英語の基礎をなす部分として大変重要なものになっています。中学高校の受験を主眼とした英語教育への橋渡しを図っていきます。

##### イ 海外語学研修の拡充

海外研修の開始から10年を迎えるこの時期に、現地視察等、プログラムそのものの更なる充実を図るための準備を行い、新教育課程開始とともに運用できるように進めていきます。

#### ウ 低学年対象英語研修(任意)の導入

低学年(1~4年生)からの英語研修のプログラムを導入する準備を進めます。新教育課程開始と同時に運用できるようにしていきます。

### ②その他の教育活動

小学校では、キャンパス環境を活かしての農業体験(田植え・稲刈り・奉納祭)や自然観察で豊かな感性を磨く取り組みのほか、東大キャンパスツアーなどで将来の可能性を広げるための、知識・自然・芸術など多方面にわたる体験学習を実施しています。

#### ア メディアリテラシー教育

小学校のPC環境も改善され、情報教室の端末によるインターネット接続を利用した授業を展開しています。今後は海外の学校とのブログ交換などにより積極的に取り組むことが国際教育・英語教育の視点からも重要になります。このような視点から、本校では他校に先駆けメディアリテラシー教育を推進していきます。これは他の小学校でも殆ど導入されていない先進的な取り組みです。

#### イ 道徳授業

小学校道徳の授業が平成30年度より教科化されるにあたり、魅力ある道徳授業を道徳教育を専門に取り扱うコンサルテーションを受けながら展開していきます。

#### ウ サーバー機器リプレース

現在小学校で使用しているサーバー(教員用サーバー・児童用サーバー等)をリプレースします。

#### エ 児童用机・椅子の交換

経年劣化している児童用の机・椅子の交換を進めます。

#### オ 募集活動

受験者数・入学者数増に繋がる木目細かな募集・広報活動を行います。小学校パンフレットの印刷、ホームページの刷新、小学校紹介VTRの制作などを行います。

#### カ アフタースクールの拡充

小学校のアフタースクールは、現在は共働きの家庭の入学者も多く、アフタースクールが学校選びの基準になっているというケースも珍しくありません。日々のプログラム内に本校主導で「習い事」や「学習」に関する外部講師を入れることでアフタースクールの充実を図り、募集広報活動の手助けとします。

### (3) 西武学園文理中学・高等学校

《西武学園文理中学校》

#### ①グローバルコミュニケーションコース新設

“英語に強い文理”の伝統を前面に打ち出し英語教育を更に充実させるため中学に新たなコースとしてグローバルコミュニケーションコースを新設、実践的な英語を身につけることで海外大学や国内難関大学への進学動機を高める教育に取り組んでまいります。セブ島での語学研修やインターネットを利用した英会話学習など小学校からの進学生にとってもそれまで慣れ親しんできた英語力を更に大学進学や留学に繋げることができる教育へと進化させていく試みとなります。

## ②英語サロンの新設

### ③グローバル人材育成

#### ア 海外研修

一昨年までのイタリア研修を見直し、急遽オーストラリアでホームステイ研修を実施することとしました。生活体験を通じて更なる英語力向上への動機づけとなる効果が見られたことから、今年度についてもオーストラリアでの研修旅行を軸に検討してまいります。

#### イ 語学教育の充実

##### (ア)イングリッシュサマースクール

(イ)ハーバード英語プログラム(ハーバード大学の学生を招いてクリティカル・シンキングを中心とした英語力強化プログラム)

## ④ICT教育

新大学入試制度への対応の一環として新1年生から全員を対象にタブレット端末を使った授業を行っています。また、学習支援・生徒指導環境クラウドサービス「Classi」を導入しています。

## ⑤施設設備の改善

中学棟の防水や外壁の点検・補修に取り組んでいきます。生徒数減少に伴い、収入的には厳しい環境ではありますが、生徒の安全にかかわる対策については優先的に取り組んでいきます。

## ⑥募集

#### ア 適性検査型入試の導入

従来の学力検査にとらわれない多彩な能力を持った生徒の受け入れを目指します。

#### イ 中学校での給食開始

## 《西武学園文理高等学校》

### ①先端科学講座

本校では世界トップクラスの先生を身近に感じ、文理生の高き志を実現させるきっかけとなることを目指して、ノーベル賞受賞者をお招きしての講演会をシリーズで実施しています。

### ②グローバル教育

#### ア ハーバード英語プログラム

ハーバード大学の学生や卒業生が来校し、“英語でのコミュニケーションスキル”と、考える力を

訓練する“クリティカルシンキングスキル”の向上をめざすものです。大学入試改革でも重視される能力を伸ばす有意義な講座です。本校が目指す実践的な英語力を伸ばすため、今年度も引き続き開催していく予定です。

イ イングリッシュサマースクール

ウ 海外進学説明会

海外進学の専門家や本校卒業生を招いての説明会

エ 特別講演開催

オ 海外研修

(ア) 普通科

オーストラリア研修 マレーシアでの現地高校生とのディスカッションをメインとしたプログラム。

(イ) 英語科

オーストラリアでの約3週間にわたるホームステイと現地校での授業を通じて実践的な語学研修を実施。

(ウ) 理数科

米国研修。NASA訪問や宇宙飛行士との交流、現地学生との交流会など、学術交流を想定した研修を実施いたします。

(エ) カリフォルニア大学バークレー校での夏季英語短期留学

カ 放課後自習

校内自習施設、川越イノベーションセンターの利用。

### ③施設設備の改善

高校棟校舎では、耐震補強工事に続き、昨年度は本館トイレの一部改修を実施いたしました。今年度は他のトイレの改修工事にも着手する一方、外壁や防水機能の劣化部分の点検・改修、体育諸施設の安全点検など着手可能な部分から概ね3年程度を目標に計画的に取り組んでまいります。

ア 外壁点検・補修 → 高校本館外壁の補修工事、窓のコーキング劣化補修工事

イ 北斗館改修工事

ウ 校用車両の更新

エ 大勇館改修工事

オ 防災用品整備

カ 校務支援システムの導入

キ 屋上等防水工事

ク トイレ改修 本館Bゾーンに続き躍動館のトイレを改修します。

ケ 教室用机・イスの交換

#### (4) 西武文理大学

高等教育機関を取り巻く環境の変化に対応すべく私立大学としての在り方や教育の質的転換が求められています。本学も時代の要請を受け止め、建学の精神に基づく人間形成と教育研究活動の推進を進め、魅力的な現代的学びが溢れ、活力のある大学を目指して改革を進め、組織・財政基盤を整備していかなければなりません。

改革はこれまで本学の教育研究の2つの柱である実践科学としての実学教育とホスピタリティ教育の上に学習者を中心に据えた教育改革や教育環境の整備を進めていくものです。

そこで本学では本年度特に力を入れて取り組んでいく活動の計画を以下に記します。

##### ①建学の精神に基づく大学教育の現代化への対応

###### ア 建学の精神の具現化

(ア)建学の理念に基づいた組織ビジョンの策定

(イ)教育にかかる3つのポリシーの具現化

(ウ)主体的に生涯学び続ける力を持った学生の育成と、学生一人ひとりの目指す進路・就職の実現

###### イ 大学のガバナンス

(ア)学内機関の協力関係の確立

(イ)大学経営の自己点検・評価

(ウ)教育研究情報等の公表

##### ②全学的教学体制による教学活動の質の向上と推進

学長室会議及び全学教授会を機能的に運営させ全学的な教学マネジメントに取り組みます。

##### ③大学広報戦略の取り組み

大学のブランディング戦略を明確にし、大学広報全般の整備及び充実を図り、効果的に本学の存在価値を内外に発信します。

##### ④教育の質的転換

###### ア サービス経営学部

(ア)カリキュラム改訂と学科再編

学びの現代化に対応しカリキュラムの改訂と学科再編を予定しております。カリキュラムの改訂は計画されたスケジュールで検討されているものです。

(イ)ホスピタリティ・コミュニケーション・センター(HCC)とヒューマンサービスセンター(HSC)の組織化

予定される学科再編後のアクティブラーニング、インターンシップやボランティア活動といった体験型の学びの開発と運営を行う組織として、HCCとHSCをそれぞれ組織化します。

HCCは一昨年より取り組んでいるグローバル・コミュニケーション・センターを発展させたもの

です。HCCは文部科学省補助事業である「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の助成を受け設立した機関であり、補助事業終了しましたが、学生の学びの場として成果が認められ、これを継続・発展的に運営を行うことが特徴となると思料します。

両機関ともに体験型の学びの場を企業や地域と開発することを使命とし、正課教育と正課外教育の連結環となることを組織化の狙いとしています。

#### (ウ) 海外大学との提携

本年度はイタリアの大学との提携を行う予定です。第1段階として教員の交流と共同研究を実施し、次の段階として学生の交流を目指します。

#### (エ) 学生の活力を支援するための奨学制度の設立

サービス経営学部では、女子ラクロス部を指定強化部と認定し、既に指定強化部となっている男子バスケットボール部とともに部に所属する学生を対象とした奨学制度を設立します。

それにより学内の学生の活力を高めることを狙いとしています。

### イ 看護学部

#### (ア) カリキュラムの検証

看護学部では計画的にカリキュラムを検証しています。そのもとで看護診断能力の涵養を狙いとしたカリキュラムの見直しに着手します。カリキュラム改訂は2年後を予定しています。

#### (イ) 国家試験対策

看護師・保健師国家試験の強化対策として講習会や模擬試験など対策企画の更なる充実を行い学生の支援体制を強化します。

#### (ウ) 実習先病院との連携の強化

#### (エ) 教育施設・設備の改善

### ⑤ 地域共創

昨年度は狭山市と包括的連携協定を締結しましたが、同協定のもと、本年度はサービス経営学部では地域社会の進行等活性化に向けたイベントを開催します(東京国際映画祭プレイベント、絵本プロジェクト、狭山ブライダルなど)。更に、東京オリンピックを目指して、ラグビーのキャンプ地の招聘に協力していきます。

- ・ サービス経営学部では地方から入学する学生のための就学環境の支援として奨学制度を新設します(現行のサービス経営学部の奨学支出限度内の振り替えで措置をする)。
- ・ 看護学部では引き続き市民大学との連携を図っていきます。

### ⑥ SD・FD 研修体制の確立

学長を中心としたSD研修の実施体制の整備を行います。これは改正大学設置基準においても求められるもので、体制の整備が求められます。

### ⑦ 高大接続・大学入学者選抜の再検討

大学は教育機能を強化するために、カリキュラムの点検・改善、厳格な成績評価・卒業認定など質の保証と可視化が求められておりますが、それに対応して両学部共に人材育成機能の強化を行います。特にサービス経営学部では能力・意欲・適性を多面的に総合的に評価・判定する入学者選抜にトライし、併せて新たな奨学制度を組み合わせることで教育の質保証を行います。

## 西武文理大学の事業計画内容

### 1 学長室の機動的経費

学部ごとの経費とは別に、学長のガバナンス体制整備のための全学的経費を制度的に確保します。

### 2 施設設備の改善・事故防止

#### (1) 大学の SD・FD 研修体制の確立

大学設置基準改定により平成 29 年度から SD が義務化されます。これから学長を中心として計画が策定されることとなりますが、その実現を担保するための予算を、FD 予算とともに確保します。想定する費用としては、学長(教学担当理事)、局長(財務・人事担当理事)、学部長が参加する私大連や経営学部長会議、看護系大学協会総会等主催会議の旅費、学内の SD 研修講師招聘旅費・謝金、学外研修機会への職員派遣旅費・受講料、キャリアカウンセラーや防火管理者、衛生管理者等置くべき資格を職員に充足させるための受講料・受験料の負担(もしくは資格取得補助)、各学部の FD 研修講師招聘旅費・謝金などです。

#### (2) 大学 1 号館高圧ケーブル交換工事及び付帯工事

#### (3) 8 号館カラー印刷機導入

#### (4) 8 号館 A3 判対応モノクロ印刷機の導入

#### (5) 2 号館 216 教室 AV システム入替

#### (6) 2 号館 216 教室 AV システム入替に伴う分電盤改修工事

#### (7) 1 号館教室の椅子の交換

#### (8) 教育用備品の更新:開学時からの耐用年数を越えた看護・医療備品の刷新

#### (9) 1 号館図書館セキュリティシステム(入退館ゲート)の入替

#### (10) 8 号館多目的ホール・事務室パーティション設置

#### (11) 8 号館周囲外灯交換工事

### 3 募集インパクト

#### (1) 大学ブランド化事業①

地域貢献及び教育文化の発信の観点から文理ビエンナーレを開催します。その準備段階として 29 年度は東京国際映画祭のプレイベントを実施します。



## (2)大学ブランド化事業②

学生の起業を支援することでサービス・ホスピタリティ産業に新しい価値を提案します。初年度はブライダル関連企業と絵本出版関連企業の起業を支援します。

## (3)高・大接続による学生募集

文理高校のみならず、特に近隣の高等学校に対して、本学の得意とするアクティブラーニングの授業を開放することで、高等学校との関係を再構築します。

## (4)新学部構想

トップエリート校の高等教育機関となる新学部を開設します。ニュー文理のフラッグシップとなる学部により生き残りを目指します。そのための検討委員会設置準備室の開設、準備室長となり得る人物の選考・招聘などを29年度から準備を進める必要があります。

## (5)海外提携大学の拡大

グローバル化への対応として海外の提携大学を増やします。初年度は米、加、豪、イタリアの大学との提携を模索しますが、相手候補先の情報収集や打診、交渉等の準備を29年度から進めます。

## (6)ブライダル授業支援業務

学内で举行される結婚式は、当日を含め様々な準備が必要です。本学ブライダルの水準を担保すべくブライダル会社との業務委託契約を締結して支援を得て、サービス経営学部のブライダルの学びをより充実させます。

## (7)平成29年度海外フィールドワーク(ブライダル)における「絆プロジェクト」の継続

被災地支援の一環として実施してきた海外ウェディングは同時に学生に対する貴重な教育機会であり、29年度においても継続して実施したいと思います。

## (8)大学の研究成果の社会的発信

西武文理大学出版会(仮)を設立し、本学の研究成果を研究叢書として出版をすることで、本学研究の認知度を高め社会的使命を果たしていきます。29年度は研究会を重ねて出版準備とします。

## (9)看護師・保健師国家試験強化対策

看護師・保健師国家試験対策講習会・模擬試験などの国家試験対策企画の更なる充実により看護師・保健師の国家試験合格率100%を目指します。

## (5)西武学園医学技術専門学校・西武文理大学附属調理師専門学校

### ①教育活動

専門学校の目的は入学生全員が国家資格を取得し、社会で活躍できるプロフェッショナルを輩出していくことにあります。

学園共通の教育の基本である“ホスピタリティスピリット”をベースに、食と医療を結び付けたユニークな教育を進める本学園専門学校各校の教育成果は調理師、栄養士、臨床検査技師、義肢装具士、言語聴覚士の資格を目指した学生の卒業後の就職率の高さを通じて社会から高く評価されており、就職先も各々の科で、専門職としての就職希望者全員、100%の就職実績を継続しております。国立・私立4大への3年次編入実績も多数あります。

また、入学生は高校新卒ばかりではなく、大学卒業生や社会人など一般の方が応募されるケースも多くなっており、幅広い年齢層からの入学生がいるため、学生の社会への関心は強く、地域ボランティアや公開料理教室をはじめ、地産地消への提案では地元の行政機関からも高く評価していただいております。今年度も地域に密着した社会活動を活発化することで円滑な学生募集を進めるとともに、本来の目的である国家試験合格 100%を目指した学習支援体制の充実を図ってまいります。

## ②事業計画

施設・設備改善を進めます。

以上